



## タイ王国の名門校 チュラロンコーン大学附属小学校との 姉妹校提携を更新

上毛町と「チュラロンコーン大学附属小学校」は、平成29年8月に締結した姉妹校提携の5年間の期限を迎えるにあたり、令和4年8月23日(火)、チュラロンコーン大学附属小学校において、新たに5年間の期限とする姉妹校提携の調印式を行いました。

チュラロンコーン大学附属小学校と上毛町の4つの小学校は、チュラロンコーン大学のスリン名誉教授が架け橋となり、平成27年度から交流が始まりました。

主な交流事業として、上毛町の6年生児童がタイに渡航してチュラロンコーン大学附属小学校の6年生と交流する「渡航事業」(上毛町からはこれまでに4回103名の児童が渡航)、チュラロンコーン大学附属小学校の5年生児童が訪日して、上毛町の5年生児童と交流する「訪日事業」(チュラロンコーン大学附属小学校からはこれまでに5回122名の児童が訪日)を行っています。また、学校での交流以外にもそれぞれの訪問先において、ホームステイや社会見学を行い、互いの文化や生活様式、習慣の違いなど、異文化交流・体験も行ってきました。

こうした相互訪問による学校交流やホームステイなどの実績が実を結び、平成29年8月に最初の姉妹校提携を締結しました。

令和2年以降、新型コロナウイルス感染症の影響により、相互訪問による交流は実施困難な状況が続いていますが、こうしたコロナ禍にあっても、ビデオメッセージで励まし合ったり、ICTを活用して両国の文化を紹介し合う活動や合同演奏会を行ったりして、自国にしながらの交流を継続・充実させることで友好の絆を深めてきました。

これまでの交流により築かれた信頼関係のもと、姉妹校提携の更新を新たな出発点として、今後は教育分野の交流を発展させるとともに、環境問題をはじめ観光・産業振興等に関しても、幅広くアイデアを持ち寄り意見交換することで、今以上に充実した交流につなげていきたいと考えています。

そしていつまでも互いが切磋琢磨しながら共に成長し、子どもたちの交流が大人になってからも継続していくことにより、互いの友好関係が一層深まり、より強い絆で結ばれていくことを期待しています。



▲調印式の様子 共に写真左からスリン名誉教授、坪根町長、シリデーチ教育学部長、パッチャリー校長



CIR(国際交流員)  
プーンシリ・ナタオーン

上毛町と「チュラロンコーン大学附属小学校」は令和4年8月23日(火)、チュラロンコーン大学附属小学校において、新たに5年間の期限とする姉妹校提携の調印式を行いました。

調印式はこれまでの交流実績を感じることができ、とても感動するとともに、この国際交流事業に携わることができていることに誇りを感じました。(調印式の詳細はP17に掲載していますので、ぜひご覧ください。)

調印式終了後、チュラロンコーン大学附属小学校内を見学することができました。日本の学校と異なる光景を数点見つけることができましたので、今回は「日本とタイの小学校の違い」についてみなさんに紹介します。

## 日本とタイの小学校の違い

### 登校・朝礼・授業

児童は朝7時40分までに登校します。学校に到着したら、校門で先生から服装のチェックを受け、顔認証付き体温測定機で検温し、学校に入るゲートをくぐります。

タイの学校では毎朝、朝礼があります。朝礼では校庭や廊下に全校児童が集合し、国旗掲揚、国歌斉唱などを行います。朝礼は日本の小学校にはない習慣ですが、タイの小学校ではどこでも見受けられる光景です。その後、朝の会や読書活動が行われ、1コマ目の授業が8時30分から始まります。

午前中の授業コマ数は、1年生～3年生は3コマ、4年生～6年生は4コマと学年によって異なっていますが、1コマ当たりの授業時間はどの学年も同じく50分となっています。



### 給食

午前中の授業が終わると、給食の時間に入ります。タイの小学校では日本と同じように給食がありますが、大きく3つの違いがあります。

1つ目は、給食を食べる場所です。日本では各教室で給食を食べますが、タイでは食堂に集まって食べます。チュラロンコーン大学附属小学校は、全校児童数が多いため、1年生～3年生と4年生～6年生の2グループに分かれて、別々の時間で給食を食べています。

2つ目は、給食の準備です。日本では給食当番を決めて児童がおかずなどを盛り付けする光景を目にしますが、チュラロンコーン大学附属小学校では、大人の給食スタッフが盛り付けを行います。給食が終わったら、自分で返却テーブルまで運び、片付けをする点は日本と変わりありません。

3つ目は、お皿です。おかずやごはんが別々のお皿に盛りつけられていることが日本では通常ですが、チュラロンコーン大学附属小学校では、ワンプレートに盛り付けられています。



みなさんどうでしたか、同じ小学校でも様々な違いがあることはとても興味深くないでしょうか。

これからも、タイと日本の違いについて発見したら随時お知らせしていきたいと思っておりますので、期待してお待ちください。